

# 隨泉寺寺報

平成 21 年 (2009 年) 1 月号 第 461 号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com/>

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

御正忌報恩講

講師 住職自修

講題 『御伝鈔について』

光寿無

新しい年の初めにあたり、ご挨拶申し上げます。今年も、阿弥陀如来の智慧と慈悲に照らされ、つつまれた私であり、他のいのちであることを思いつつ、日々を大切に過ごしましょう。

新年を迎える目覚めの朝は、何だか背筋がすっと伸びるようで、どこか清々（すがすが）しい空気に包まれている気がします。平生味わうことのない、《格な朝》。そこには、悠々（ゆうゆう）たる時が流れています。新年を迎えるというこの一は、この「朝」を迎えるということなのかもしれません。おおよそ、新年を迎えようとするこの感覚は独特のものです。挨拶回りや年賀状のやり取りをとおして、私たちはお互いの関係性を感じようとし、それは、〈つながり〉の中に生きているということ、そしてこれまで生きてきた、あるいはこれから生きていこうとする、自（みづか）らの「場所」を確認する作業でもあります。

己（おのれ）と向き合い、今を知る。行く末を見つめ、目指すところを確かめる。「今」がそんな時間でありたいと私は念じます。

## 1月の法座予定

- 1月11日……………掃除 望ヶ丘
- 1月14日昼席午後1時より……………御正忌報恩講法要
- 1月14日夜席午後7時より……………おたんや 御伝抄拝読
- 1月15日朝席午前10時より……………御正忌報恩講法要 御伝抄拝読 おと  
き
- 1月15日昼席午後1時より……………御正忌報恩講法要 御俗抄拝読
- 1月15日午後2時半より……………新年互礼会

## ☆御正忌報恩講（おたんや）1月14日（水）～15日（木）

親鸞聖人のご命日の法要を今年も例年のように勤めます。寒さの中体に気をつけて、ぜひともおまいりください。

## ☆新年互礼会1月15日（木）昼席引き続き

新年の互礼会を御正忌報恩講の昼席の後引き続き行います。昨年の出席カードの集計も行います。楽しみにご参加ください。

ご挨拶 隨泉寺門信徒会副会長 松井邦夫

門信徒会会員の皆様 あけましておめでとうございます。昨年は大変お世話様になりました。本年もよろしくご指導くださいますようお願い申し上げます。

私は実母の教えを守って満七十二歳まで来ました。実父は浄土真宗本願寺派でしたが、実母はプロテスタントのクリスチャンでした。父は原爆病院で養生しておりましたので、母の人生最期の式には呼びませんでした。母は「人間同士が差 しいあってはいけない」と教えました。私は19歳の時に「被差 部落開放運動」を始め、現在も続けております。

被差 部落では現在三百万人の方々が生活なさっております。今でも結婚の時には差 がございます。私たちの浄土真宗本願寺派では理不尽な人間差 はないと教えています。 合掌



迎春 隨泉寺修徳仏教婦人会会長 太尾田道子

新春を迎えおめでとうございます。

皆様には良き新春を迎えられ、お健やかに念仏ご相続のこととお慶び申し上げます。昨年はいろいろと修徳仏教婦人会活動にご協力、ご尽力賜りました。まことにありがとうございました。

宗祖親鸞聖人のお言葉に「世の中安穏なれ、仏法弘まれ」（ともにいのち輝く世界へ）とあります。

「仏教婦人会綱領」「仏様の願い」に「お聴聞をかさね」皆様とともに念仏に遇わせていただくことのできる喜びを嬉しく思っています。

ここに老院鎌田不動様のお手紙をいただいています。

親が子を殺し、子が親を殺し、世の中があわただしく変化し、少子高齢社会も加速的にすすんでいます。日本が、広島が、安芸区が、中野・瀬野が平和で安心して安全で念仏が「繁盛」し、御法儀が弘まり門信徒の皆様がこぞってみ仏のみ教えに耳を傾け、念仏の中に手を合わせ、念仏を声高らかに称和していのちの尊さに目覚めて報恩の思いから、世のため人のために生きる人生を歩まれます事を念じてやみません。

合掌 南無阿弥陀仏 平成二十一年春

## こんなにおかげさまを 散らかしている私 すみません

私の若い頃から、ずっと不断にお育てをいただいていた森信三先生は、ご飯をおあがりになるにも、ご飯とお副えものを一緒に口に入れては、食物に申しわけないとおっしゃり、ご飯をよくよく味わい、それを食道に送ってから、お副えものを口にされ、お副えもののいのちと味を、充分お味わいになってから、ご飯を口になさると、承ってきました。いつか、お伺いしたとき、出石の名物の餅を持参したことがありますが、「これほどの餅をつくる場所が出石にありますか」と、おっしゃり、何気なく口にしていたことが、はずかしくなったことがありました。

毎日、食物をいただかない日なしに、七十七年も生きさせていただいていた私ですが、食べものたちに対しても、ずいぶん、申しわけない自分であることに気づかされます。

食べ物をつくった方々に対しても、ずいぶん、申しわけない「この身」であることに気づかされます。

せめてわたしも……

数えきれないほどのお米の一粒々が

一粒々々のかけがいのないいのちを ひっさげて

いま この茶碗の中に わたしのために

怠けているわたしの胃袋に目を覚まさせるために山椒が

山椒のいのちをひっさげて わたしのために

梅干しもその横に わたしのために……

白菜の漬物が 白菜のいのちをひっさげ

万点の味をもって わたしのために……。

もったいなさすぎる もったいなさすぎる



## 生きる

随泉寺 門信徒会副会長 門前賢四郎

随泉寺門信徒会の皆様、新年明けましておめでとうございます。

旧年中は当門信徒会の諸事業の推進に深いご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。本年もよろしくお願い申し上げます。



生きることのすばらしさと・生きる難しさについて考えて見ましょう。

人間、長生きができることは、素晴らしい、人類すべての願いである。昔は呆けや、寝たきりの方は少なかった？これらは、戦争や医学等の要因もあると思うが、呆ける前に、また寝たきりになる前に亡くなっていた。

現代では、「年を取ってから生きる時代」になってきている。

将来はどうなるか、必ずと言っていいほど、寝たきりと・呆けが進んでくる。生きるということは難しいが、長生きの時代

に合ったもので、克服していかなければならない。

交 事故で亡くなった方が一万人を超え、自殺者にいたっては三万二千人を超える。毎日 88 人が亡くなっている計算になる。40 代～50 代が約半数を占めている。難病等で生きてたくても生きられない方もおられるのに、自ら命を絶つということは、命に対する冒瀆である、もっと命を大切にしたいものである。

「生きていく力がなくなる」と言うことだと思ふ、こんな時こそ、お寺を訪れ聴聞を授かる、仏様の前に座って「南無阿弥陀仏」を唱え「明日を思う心が湧き出るまで」座してみる、そうすることにより、真実の自己・本来の自己・裸の自己になって、そこに生きる基点が見いだせるような気がする。

せつかくこの世に生を受けたのだから、命の完全燃焼ができることが大事である。生きるということは、老いるということにもつながると思う。

そうして、老いるということとは、「人間が大きく広くできてくる」ということ。

もう一つは「できなくなってくる」こと、二つの があると思う。紙 上割愛する。

相田みつおさんの詩に「あなたがそこに、ただいるだけで、皆の心は安らぐ。あなたがそこに、ただいるだけで、その場の空気が明るくなる。そんなあなたに、私もなりたい」感動する詩である。こんな、生き方ができればいいなと思う。

自分の過去を振り返ってみると、人のいたみの判る人であったらどうか、少しは周りの人へ喜びを与えたであらうか、ここにいてほしい人であったであらうか、反省している。今、何をしておくべきか何を遺しておくべきか振り返って今後の課題としたい。

中野東学区内外の各種団体と関りを持ったことにより多くの方々との出会いがあったことが、私にとって、一つの財産となったように思います。

終りに、門信徒会の会員の皆様の健やかで生き甲斐のある、豊かな生活が末長く続きますよう念じ上げます。

合掌